

問1 班田収授法によって口分田を与えられた農民には、さまざまな税の負担が課せられました。このうち、口分田の収穫から約3パーセントの稲を納める義務を何と呼びますか。その名称と内容として適切なものを選びなさい。（2018年 大阪公立入試 類似）

- 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。
- 「調」と呼ばれ、地方の特産物を都まで運んで納める負担であった。
- 「庸」と呼ばれ、都での労役に代わり布を納める負担であった。
- 「公出挙」と呼ばれ、国から稲を借りて利息をつけて返す制度であった。

問2 8世紀頃の讃岐国（現在の香川県）において、地方政治の拠点であった「讃岐国府」のような役所を中心に行われた統治体制の説明として、適切なものはどれですか。（2021年 香川公立入試 類似）

- 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。
- 武士の棟梁が地方ごとに地頭を派遣し、現地の豪族であった郡司に代わって土地の管理や警察権を行使した。
- 各地の有力な豪族が藩主となり、中央政府の干渉を受けことなく独自の法律や税制を用いて領地を統治した。
- 中央から派遣された郡司が、現地の有力者である国司を指導することで、都の文化や制度を全国に広めた。

問3 律令制下で作成された戸籍において、「筑前」という広域の区分の後に空欄A、「嶋」というその下位の区分の後に空欄B、「戸翻川」というさらに下位の区分の後に空欄Cが続く記述形式が見られる場合、A・B・Cに当てはまる地方行政区分の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2023年 青森県公立入試 類似）

- A:国 B:郡 C:里
- A:国 B:里 C:郡
- A:道 B:府 C:県
- A:藩 B:郡 C:村

問4 8世紀の文化的な特徴について、当時の社会背景と関連付けた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 千葉公立入試 類似）

- 遣唐使によってもたらされた唐の文化と仏教が融合し、国家の安定を願う性格の強い文化が形成された。
- 大陸との交流を絶ったことで、日本独自の感性を重視する優美な和風文化が国風文化として開花した。
- 聖徳太子の執政のもと、日本で最初の仏教文化として、大陸の南北朝時代の様式が取り入れられた。
- 武士の台頭に伴い、質実剛健で力強い様式が好まれ、禅宗の影響を強く受けた文化が普及した。

問5 奈良時代の文化の特色について述べた文として、国際色豊かな文化が形成された背景を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2026年 福岡公立入試 類似）

- 遣唐使が派遣されたことで、唐の都である長安に集まっていた西アジアなどの文化が日本に持ち込まれたため。
- 聖武天皇が高句麗から招いた僧侶たちが、西アジアの最新の建築技術や工芸品を日本に直接伝えたため。
- 律令制度の確立により、西アジアの諸国と直接の外交ルートが開かれ、大規模な貿易が行われたため。
- 後醍醐天皇が新しい政治を始めるにあたり、それまで交流がなかったペルシャ地方の文化を積極的に取り入れたため。

問6 聖武天皇が発した「大仏造立の詔」には、「富のある者も、労働力を提供する者も、一枝の草や一握りの土を持ち寄るような気持ちで協力してほしい」という意図が記されています。この事業を円滑に進めるため、聖武天皇が民衆の協力を得るために協力させた人物と、その背景の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

- 民衆から絶大な支持を受けていた僧の行基を起用し、資金や人手を集めさせた
- 唐から招いた鑑真に命じて、仏教の厳しい戒律を民衆に守らせることで労働を強いた
- 摂政であった聖徳太子に命じて、十七条の憲法によって役人の規律を正させた
- 有力貴族の藤原氏を動員し、荘園の農民を強制的に都へ連行して工事を行わせた

問7 奈良時代、聖武天皇が東大寺に大仏を造り、全国に国分寺や国分尼寺を建立した目的として最も適切なものはどれですか。

（2017年 和歌山公立入試 類似）

- 仏教の力によって伝染病や社会の不安を鎮め、国家の安定を図ろうとする鎮護国家の思想を実践するため。
- 地方の豪族に寺院を管理させることで、中央政府による土地と人民の支配を強化し、班田収授法を徹底するため。
- 遣唐使の派遣に必要な膨大な経費を賄うため、全国の寺院を拠点として広く寄付を募り、財政を立て直すため。
- 海外からの軍事的な脅威に対抗するために、寺院を軍事拠点として整備し、僧兵を訓練して防衛力を高めるため。

問8 律令国家の地方支配において、日本列島が多くの「国」に細かく区分されていた地理的状況を踏まえ、当時の行政運用の実態について述べた文を選びなさい。（2018年 奈良公立入試 類似）

- 中央政府からの命令を全国へ一貫して伝えるため、主要な道に駅を置き、国ごとに国府を設けて国司が実務にあたった。
- 各地方の境界線は明確ではなく、地域の有力者が地頭として独自の判断で境界を定めていた。
- 九州から東北まで、すべての地域に太政官の出張機関である八省の支局を置き、官僚が直接農作業を指導した。
- 国司は中央から派遣されるのではなく、その土地に古くから住む豪族が世襲でその地位を独占し続けた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 「租」と呼ばれ、地方の役所に納められて国や地方の備蓄となった。	口分田の面積に応じて課せられた税が「租」です。これは収穫した稲の約3%という比較的軽い負担であり、地方にある「正倉」という倉庫に納められ、地方政治の財源や飢饉に備えた備蓄として利用されました。これに対し、都まで運ぶ必要があった「調」や「庸」は農民にとって非常に重い負担となっていました。
問2	答え 1 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。	国府は、都から派遣された国司が執務を行う地方行政の中心地でした。ここで国司は、現地の豪族から選ばれた郡司を指導し、律令に基づいた統治を行いました。郡司は代々その土地を治めてきた豪族が任命されたため、土地の事情に精通しており、国司はその影響力を利用して徴税などを効率的に進めました。守護や地頭が設置されるのは後の鎌倉時代であり、藩主による統治は江戸時代のことであるため、律令時代の国司・郡司の仕組みとは異なります。
問3	答え 1 A:国 B:郡 C:里	律令制度の地方行政区分は、広い範囲から順に「国（くに）」・「郡（こおり）」・「里（り、のちに郷）」と定められていました。「筑前」は国名、「嶋」は郡名に該当するため、この順序が適切です。「道・府・県」は現代、「藩」は江戸時代の区分です。
問4	答え 1 遣唐使によってもたらされた唐の文化と仏教が融合し、国家の安定を願う性格の強い文化が形成された。	天平文化は、遣唐使の往来によってもたらされた唐の進んだ文化や、その先の西アジア・インドなどの国際的な影響を強く受けています。また、社会不安を解消するために仏教の力を借りようとした聖武天皇の「鎮護国家」の思想が、大仏造立や寺院建築といった形で具現化された点が、他の時代の文化との大きな違いです。
問5	答え 1 遣唐使が派遣されたことで、唐の都である長安に集まっていた西アジアなどの文化が日本に持ち込まれたため。	当時の唐は国際的な帝国であり、都の長安には西アジア（ペルシャ）などの文化が流入していました。遣唐使や留学生、僧侶たちが、仏教の経典とともにこれらの国際色豊かな文化を日本に持ち帰り、聖武天皇を中心とする天平文化に大きな影響を与えました。
問6	答え 1 民衆から絶大な支持を受けていた僧の行基を起用し、資金や人手を集めさせた	聖武天皇は大仏造立を国家の強制的な事業とするのではなく、広く民衆が自発的に参加する形を理想としました。そのため、当時は政府の許可なく布教を行い弾圧の対象であったものの、橋の建設やため池の築造などの社会事業を通じて民衆から深く慕われていた僧の行基を登用しました。行基は大仏造立の責任者（勸進）として、多くの人々から寄付や労働力を募る役割を果たしました。
問7	答え 1 仏教の力によって伝染病や社会の不安を鎮め、国家の安定を図ろうとする鎮護国家の思想を実践するため。	聖武天皇の治世では、天然痘の流行や相次ぐ政変、干ばつなどにより社会が非常に不安定な状況にありました。このような災厄から国を守るため、天皇は仏教の力を借りて国を治める「鎮護国家（ちんごこっか）」の考えに基づき、東大寺の大仏造立や、全国各地への国分寺・国分尼寺の建立を命じました。これは宗教の力で民衆の心を結びつけ、国家の平穏を願ったものです。
問8	答え 1 中央政府からの命令を全国へ一貫して伝えるため、主要な道に駅を置き、国ごとに国府を設けて国司が実務にあたった。	律令国家は、細かく分けられた各国の拠点に「国府」を置き、中央から派遣された国司がそこで政務を行いました。中央の太政官からの命令を迅速に伝え、地方の情報を吸い上げるために交通網も整備されました。なお、国司の下で実務を支えた郡司には現地の豪族が任命されましたが、国司自体は中央から派遣される官吏であり、世襲ではありません。